

DATA FILE



斜方晶系

名 前	ARAGONITE (アラゴナイト) / 霰石
化学組成	CaCO ₃
色	無色、白色、灰色、褐色、黄色、青色、ピンク色、紫色など
光 沢	ガラス光沢
蛍 光	淡い青色、ピンク色、黄色
条 痕	白色
劈 開	明瞭
断 口	貝殻状
硬 度	3.5 ~ 4
比 重	2.9

英名の「アラゴナイト」は、最初に発見されたスペインのアラゴン地方にちなんで名づけられた。

多彩な色を示し、見る方向により色が異なるものも存在。紫外線を照射すると、淡い青色、ピンク色、黄色の蛍光を放つものがある。

ガラスのような光沢を持ち、ハンマーなどでたたくと貝殻状の断口を示す。

サンゴにそっくりのものや霰の形をしたものなど、結晶はさまざまな形状であられる。また、双晶になると六角柱に見えるものもある。

硫黄の表面を覆っている柱状結晶の霰石。イタリア産。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

サンゴや貝殻の主成分と同じ化学組成を持つ。また、方解石、ファータライトとも化学組成が同じで、同質三像の関係にある。

あら いし

霰石

ARAGONITE

ア



ア 霰石

同質三像の関係

霰石は、方解石、ファースライトと同じ化学組成を持っており、見た目もよく似ているが、霰石が斜方晶系であるのに対し、方解石とファースライトは六方晶系だ。このように、化学組成が同じで結晶構造が異なる鉱物の関係を「同質異像」または「多形」といい、圧力や温度などの変化にともない結晶構造を変え、相転移する性質がある。なかでも、3種類の鉱物が同質異像の関係にある場合は、「同質三像」と呼ばれる。ちなみに、方解石は16世紀ごろから認識され、霰石は1797年に発見されたが、ファースライトは1911年に人工的につくられた後、アイルランド北部で天然のものが産出した。



▲結晶が3個連なった双晶の霰石。
表面に見える線は条線。

▶イタリア産の霰石の結晶。



◀塊状であらわれた霰石。ルーペで拡大して見ると、無数の小さな結晶からできていることがわかる。

さまざまな色や形

霰石の結晶は、無色、白色をはじめとして、褐色、青色、黄色、紫色など、幅広い色調であられる。形状もさまざまで、岩石の隙間からサンゴそっくりの形で産出するものは「山サンゴ」、霰に似た豆粒状であられるものは「豆石」と呼ばれている。また、蛇紋岩の割れ目で柱状や針状になっている結晶のほとんどは霰石である。

霰石は傷つきやすいのでアクセサリーには使われないが、質の良いものはカボション・カットを施され、見て楽しむ装飾品として利用されている。なお、塩素を含む水道水で洗うと損傷してしまうことがあるため、洗浄する場合は蒸留水が必須だ。

鉱物名の由来

霰石の英名「アラゴナイト」は、最初に発見されたスペインのアラゴン地方にちなんで名付けられた。一方、和名は、江戸時代に長野県で産出した豆粒のような石を霰の形状に似ていることから「霰石」と呼んでいたことが由来。明治時代に入り、この霰状の石はアラゴナイトであるとされたが、さらに後になって、アラゴナイトではなく方解石であることが判明した。しかし、当時の名残から、「霰石」はアラゴナイトの和名として使用されている。

主な産地

